

## フランス大統領選挙の前哨戦

発表日：2016年11月18日(金)

～共和党予備選は事実上の大統領選～

第一生命経済研究所 経済調査部  
主席エコノミスト 田中 理  
03-5221-4527

- ◇ 来年のフランス大統領選挙の候補者を選ぶ共和党予備選が始まる。決選投票で極右・国民戦線のルペン候補と対峙するのは、ジュペ元首相、サルコジ元大統領、フィヨン元首相の誰となるのか、注目が集まる。何れの候補が決選投票に残っても、ルペン候補に勝利すると見られており、共和党予備選を制する者がフランスの次期大統領となる可能性が高い。
- ◇ ただ、6月の英国民投票や先の米大統領選など、世論調査の信頼性が疑われる投票が相次いでいる。過去の大統領選で、国民戦線の候補者は事前の世論調査を上回る票を集めてきた。隠れ極右支持の存在は無視できない。また、共和党の予備選でリードするジュペ候補は、若手改革派で独立系候補のマクロン前経済相に支持を奪われている。同氏の出馬表明が与える影響も読み切れない。なお、共和党の予備選には共和党员以外も投票することが出来る。本選を有利に進めるため、国民戦線の支持者が投票しないとも限らない。

来年4・5月のフランス大統領選挙は、初回投票で50%以上の票を獲得した候補者がいない場合、獲得票が上位2名の候補者が翌週の決選投票で大統領の座をかけて戦う。各種の世論調査によれば、極右政党・国民戦線を率いるルペン候補が30%近くの支持率をキープしており、決選投票に進出することが確実視されている(図表1・上段)。そのため、残り1つの枠を、中道右派の共和党の候補、現与党で中道左派の社会党の候補、最近出馬を表明した独立系候補のマクロン前経済相、左派政党・左翼党のメラション候補、中道政党・民主運動のバイル候補などが競っている。従来、共和党や社会党は党内調整で候補者を一本化したり、同一政党から複数の候補者を擁立するケースがみられた。だが、社会党は2012年の前回選挙から、共和党も今回の大統領選から、党の候補者を一本化する予備選挙を実施する。共和党の予備選挙は今年20日に初回投票が、翌週27日に決選投票が行われ、社会党の予備選挙は来年1月22日に初回投票が、翌週29日に決選投票が予定されている。フランスの二大中道政党が予備選挙を導入する背景には、透明で公平な候補者選びという表向きの理由に加えて、同一党内の複数候補者間で票が分散し、残り1枠を賭けた共和党・社会党間の争いに負けてしまうとの危機感がある。

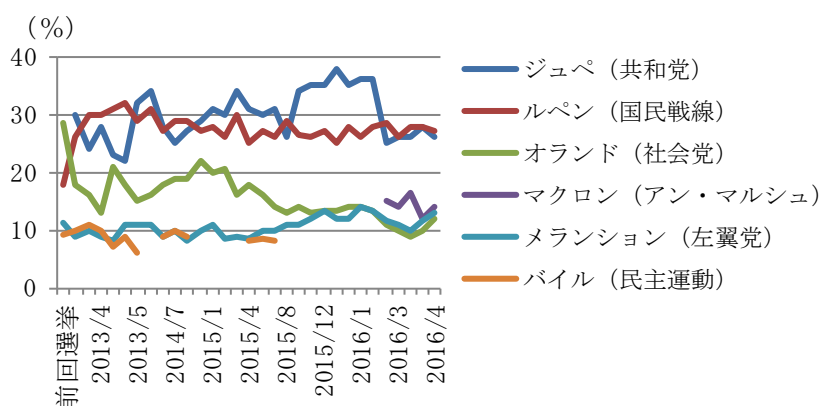
社会党の大統領候補者には、現職のオランダ大統領に加え、ヴァルス首相、モンテブル元産業復興相などの名前が挙がる。世論調査での支持率は何れの候補も10%前後で低迷しており、決選投票に進出する望みは薄い。そのため、共和党の予備選を制した候補が、次期大統領の座を巡って決選投票で国民戦線のルペン候補と対峙する可能性が高い。今週末に始まる共和党の予備選挙には、党首を務めるサルコジ前大統領、シラク政権下で首相を務めたジュペ氏、サルコジ政権下で首相を務めたフィヨン氏などが立候補し

ている。共和党の予備選はフランス全土で1万余りの投票所で行われ、国政選挙の有権者登録をし、2ユーロ（約230円）を支払い、「中道および右派の共和党の価値観に同意する」との文言に署名する全ての国民が投票できる。初回投票の世論調査では、ジュペ元首相が40%近くの支持でリードし、それをサルコジ元大統領が30%前後で、さらにフィヨン元首相が20%前後の支持で追う。当初はジュペ対サルコジの一騎打ちと見られていたが、ここに来てフィヨン氏が追い上げている。予備選・決選投票の組み合わせが、ジュペ対サルコジ、ジュペ対フィヨンの何れになった場合も、ジュペ氏が逃げ切る展開を世論調査は示唆している。但し、共和党の予備選は今回が初めてで、世論調査の精度を高める調整などは行なわれない。

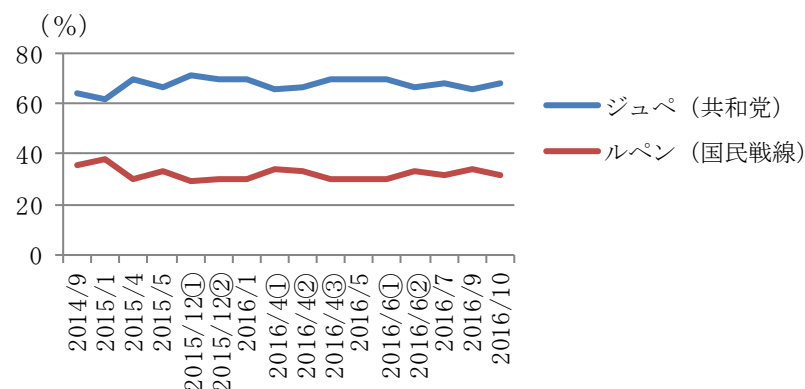
こうした世論調査の結果通りに、共和党候補の座をジュペ元首相が射止め、来年の大統領選挙の決選投票で国民戦線のルペン候補と争った場合、ジュペ首相が逃げ切るとの見方が支配的だ（図表1・下段）。ルペン候補の父親が国民戦線の大統領候補として決選投票に臨んだ2002年の大統領選挙では、初回投票で他党を支持した有権者の多くが、共和党の前身である国民運動連合のシラク候補支持に回り、極右大統領の誕生を阻止した。だが、不安要素もある。まずは、若手改革派のマクロン前経済相の出馬の影響が読みきれない。同氏の出馬が取り沙汰された以降に発表された世論調査で、ジュペ元首相の支持率が低下している。マクロン候補はオランダ政権で閣僚に登用されたが、社会党の所属議員ではなく、現在は社会党員でもない。国民的な人気を誇り、党派を超えた支持を得る同候補は、共和党内で中道路線を敷くジュペ候補と支持層が部分的に重なる。

（図表1）フランス大統領選挙の世論調査

【初回投票：共和党候補がジュペ元首相の場合】



【決選投票：ジュペ（共和党）対ルペン（国民戦線）】



出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

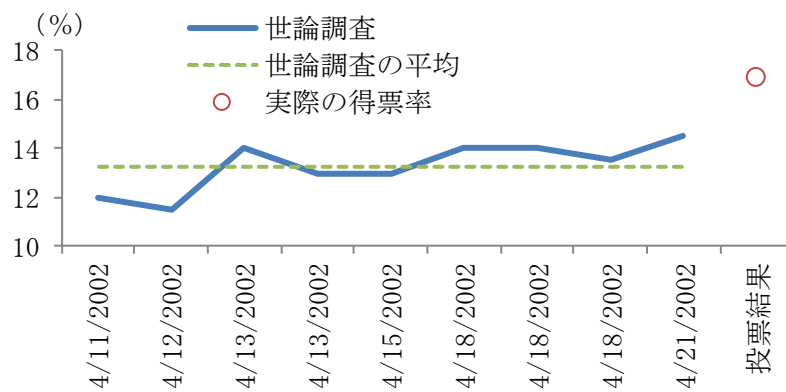
本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

また、6月の英国民投票でのEU離脱選択に続き、先の米大統領選挙でのトランプ候補が勝利するなど、世論調査の信頼性が疑われる出来事が相次いでいる。ジュペ大統領の誕生を示唆する世論調査を鵜呑みにしていいのかも不安が残る。ちなみに、ルペン（父）が大旋風を巻き起こした2002年の大統領選挙と、ルペン（娘）が立候補した2012年の前回大統領選挙での、両候補の世論調査での支持率と実際の得票率を比べたところ、世論調査を上回る支持を獲得していたことが確認される（図表2）。隠れ離脱支持や隠れトランプ支持が投票結果を左右したのと同様に、隠れ極右支持が一定数いる可能性がある。

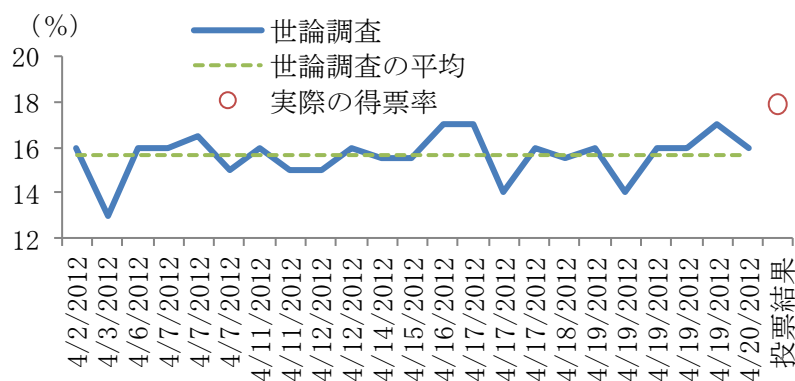
なお、決選投票の世論調査では、共和党の候補がジュペ氏、サルコジ氏、フィヨン氏の何れになった場合も、決選投票で国民戦線のルペン候補を破ると見られている。ただ、ジュペ対ルペンの一騎打ちではジュペ候補の支持が70%程度とルペン候補の30%程度を大きくリードしているのに対し、フィヨン氏では65%程度、サルコジ氏では60%弱の支持にとどまる。前述の通り、共和党の予備選に投票するためには、共和党员である必要はない。あくまで推測に過ぎないが、本選でルペン候補が勝利するチャンスを高めるため、国民戦線の支持者が共和党予備選に投票しないとも限らない。

（図表2）フランス大統領選挙の世論調査と投票結果

【2002年初回投票・国民戦線ルペン候補（父）】



【2012年初回投票・国民戦線ルペン候補（娘）】



出所：各種世論調査より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。